

がん研究に患者・市民が参画するためのカリキュラム第2版の評価と対面研修プログラムの開発

研究分担者

三森功士 / 九州大学病院別府病院 病院長 外科教授

研究協力者

藤田直也 / 公益財団法人がん研究会 がん化学療法センター 所長

【研究要旨】：がん研究における患者・市民参画を推進するために研究班で開発したカリキュラム第2版のカリキュラムコードを、日本癌学会主催の Survivor・Scientist Program (SSP) に付与して対面研修会を実施した。

A. 研究目的

本研究の目的は、日本癌学会が主催するサバイバー・科学者プログラム(SSPプログラム)を通じ、がんサバイバーおよび患者支援団体リーダーとがん基礎研究者との交流を促進し、患者支援活動の高度化およびがん研究の社会的還元を推進することである。

また、本プログラムに体系化されたカリキュラム・コードを付与することにより、複数学会における患者支援プログラム間の連携を深化させ、学術的かつ実践的な患者支援人材の育成を目指す。

B. 研究方法

2024年9月19日から21日に福岡国際会議場などを会場として開催された第83回日本癌学会学術総会において、日本癌学会主催のサバイバー・科学者プログラム(略称 SSPプログラム)を開催した(https://site.convention.co.jp/jca2024/ssp/ssp_participants/)。

第9回目の開催となる本年度のSSPプログラムでは、がん研究の専門家による最先端のトピックスのレクチャー(基礎講座)、患者会のリーダーからなるアドボケートメンターとのグループセッション、参加者によるポスター発表、そして本SSPプログラムを通じた学びを参加者自身がまとめて発表するグループプレゼンテーションに、本研究班で設定されたカリキュラム・コードを付与することで、3学会がそれぞれ行なっている患者支援プログラムが体系的に学べることができるような形式で実施した。具体的には、基礎講座にはコード：がん-1

を、アドボケートメンターとのグループセッションにはコード：参画-1、参画-2、研究-4を、参加者によるポスター発表にはコード：参画-1を、グループプレゼンテーションにはコード：がん-1、参画-1、参画-2を付与した。

(倫理面への配慮)

倫理的配慮が必要な内容は含んでいない。また、個人情報取り扱いはない。

C. 研究結果

第9回のSSPプログラムには7名が現地参加、そして17名がWebで聴講した。これら参加者に本SSPプログラム終了後にアンケート調査を実施した。ほとんどの方から未来のがん治療に資するがん研究がより発展することを祈念するなどの感想が多く寄せられた。

D. 考察

日本癌学会内でも、SSPプログラムに対する理解が進み、がんサバイバー・患者支援団体リーダーとがん基礎研究を行う科学者との協働は重要であるとの認識が浸透してきている。そうした甲斐もあり、これまで長く開催してきた市民公開講座と同じような重要な活動であるとして、日本癌学会・学術総会からも大きな支援を得られるようになってきている。しかし一方で、現地参加されるがんサバイバー・患者支援団体リーダーの人数はあまり増えてはおらず、毎年10人前後の参加に留まってしまっている。そこで、SSPプログラム

の認知度を上げるために、日本癌学会 HP 内に SSP プログラムの紹介ページを新たに設けるなど テコ入れを図っている

(https://www.cancer.or.jp/modules/public/index.php?content_id=65)。今後は、カリキュラム・コードを通じた体系的な学びとなるよう、カリキュラム・コードに 3 学会それぞれの患者支援プログラムのどこで学習・体験できるのかの情報を付与し、カリキュラム・コードから患者支援プログラムを検索できるようなシステム構築といった利便性の向上を図り、3 学会の患者支援プログラムを有機的に連携させていくことも重要ではないかと思われた。

また SSP プログラムは、がんの診断と治療の基盤となる基礎研究を深く理解することに力点をおいた患者会による理想的な活動である。しかしその一方で、基礎研究が如何に実臨床に応用されているのか？あるいは実際の臨床のなかでどのように基礎研究の成果が役に立っているのか？患者会の裾野を広げるためにも臨床的視点も必要なのではないか？たとえばがんの治療の 4 つのアームのなかで基礎研究とは最も距離のある外科では病変を体外に排出することで根治性が得られるが、外科手術の意義を基礎的視点で勘案するなど、患者会としても関心があるのではないか？このような考察もなされた。

E. 結論

がんサバイバー・患者支援団体リーダーと日本癌学会理事会の双方からの賛同のもとに、SSP プログラムの基礎講座などに本研究班のカリキュラム・コードを付与して開催できた。体系的な学びとなるよう、今後も SSP プログラムにカリキュラム・コードを付与していくこととなった。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Suzuki M, Uchibori K, Oh-Hara T, Nomura Y, Suzuki R, Takemoto A, Araki M, Matsumoto S, Sagae Y, Kukimoto-Niino M, Kawase Y, Shirouzu M, Okuno Y, Nishio M, Fujita N, Katayama R. A macrocyclic kinase inhibitor overcomes triple resistant mutations in EGFR-positive lung cancer. NPJ Precis. Oncol., 2024 Feb 23;8(1):46.

- 2) Mimori K. A comprehensive summary of the impact of the COVID era on various gastrointestinal cancers. *Ann Gastroenterol Surg.* 2024 Apr 25;8(3):372-373. doi: 10.1002/ags3.12811.
- 3) Mimori K, Fujii T, Sho M, Endo I, Shirabe K, Kitagawa Y. Interview with Prof. Dr. Jeffrey Drebin, President of the 2024 President Elect of the American Surgical Association. *Ann Gastroenterol Surg.* 2024 Nov 22;9(1):24-31. doi:10.1002/ags3.12882.
- 4) Ando Y, Masuda T, Hayashi N, Kosai K, Shibuta S, Ono Y, Taro T, Otsu H, Hisamatsu Y, Yoshizumi T, Mimori K. SET-binding protein 1 (SETBP1) suppresses cell proliferation in estrogen receptor-positive breast cancer. *Breast Cancer.* 2025 Feb 20. doi: 10.1007/s12282-025-01667-w.

2. 学会発表

- 1) 高木聡, 藤田直也, 組織透明化技術を用いた骨肉腫肺転移巣の観察 第 33 回日本がん転移学会, 奈良, 6月, 2024年

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし